

講義コード	11C0121300	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員	齋藤 哲哉	開講期	第2期
科目名	実験経済学					齋藤 哲哉		第2期	
履修前条件						備考			
授業の目的	経済理論を検証する方法としての実験経済学の位置付けを計量経済学との関係性と絡めて理解する。そして、基本的な統計学と回帰分析の知識を学修し、実験経済学でも多くその考え方が用いられるゲーム理論の基礎を学ぶ。その上で、いくつかの代表的な実験とその結果を理解する。その後で実際に実験を行い、その結果を分析して、その中で実験手法の基本を学ぶことが目的となる。実験の実施に必要なプログラムは提供する。								
到達目標	経済理論と計量経済学の有効性と限界を知り、実験的手法の意義を理解した上で、自分の手で実験を実施して、分析できるようになることが目的となる。								
授業外学修内容・授業外学修時間数	実験プログラムのコードの読解、実験データの分析、レポート／報告資料の作成を授業外学修として行う。(計60時間以上)								
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 【第1回】 ガイダンス 【第2回】 統計学・回帰分析の基礎① 【第3回】 統計学・回帰分析の基礎② 【第4回】 ゲーム理論① 【第5回】 ゲーム理論② 【第6回】 交渉ゲームの理論 【第7回】 交渉ゲームの実験結果の紹介 【第8回】 取り付け騒ぎの理論 【第9回】 取り付け騒ぎの実験結果の紹介 【第10回】 市場均衡の理論と実験手法 【第11回】 市場均衡の実験の実施 【第12回】 分析手法に関するディスカッション 【第13回】 レポート報告 【第14回】 レポート報告 【第15回】 まとめ 								
成績評価の方法	科目の性格上、期末試験での基本的な知識の確認とレポートの評価を行う。レポートはグループで作成したものとし、配点は期末試験30%、レポート70%とする。ただし、期末試験未受験の場合は不可とする。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『実験ミクロ経済学』小川・川越・佐々木（東洋経済新報社）2012、『実験マクロ経済学』小川・川越・佐々木（東洋経済新報社）2014								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他									